

# テーマ：身体表現

南長崎第一保育園(豊島区)

## テーマを設定する

昨年度に引き続き、同じテーマ、アーティストさん(外部講師)で同じ子どもたちで実施。昨年度の印象が子どもたちに根深かったため。子どもたちがイメージしながら自由に表現できるところが子どもたちに合っていたから。

## 活動 アーティストワークショップ1~4

影絵セットと懐中電灯を用いた身体表現活動を実施。対象に懐中電灯の光をあてる距離や角度を変えて、出来上がる影の違いを探索したり、身体表現チームの動きに合わせて、音楽演奏チームが即興で音楽を奏でるなど、友だちと協力しながら行う表現活動にチャレンジした。

## 環境をデザインする

●準備した物 白布、スタンド、投光器、懐中電灯、楽器(ハンドベル、鈴、オーシャンドラムなど)、ロール段ボール、マスキングテープ、油性マジック、ホチキス、クレヨン、セロテープ、色紙、お花紙、リボンなど各種素材

## 探究活動を実践する

### ●活動内容(1日目)

1. 外部講師のまねをしてダンス。
  2. 音楽家の生演奏に合わせてまねっこダンス。
  3. 2グループに分かれて(2)を発表し合い、感想を伝え合う。
  4. 影絵セットが登場。外部講師が身体の影表現を披露。
  5. 子どもたちが3グループに分かれて影表現を探索する。メンバーチェンジをして、さらに探索する。
  6. 静かな楽器の音を聞いてリラックス。
- ※2日目は4歳児クラスを招待してワークショップを実施。デモンストレーションを4歳児が行った。3日目は即興演奏に合わせた影絵の表現にチャレンジ。身体で影絵を表現する役、楽器を演奏する役、観客として観る役に分かれて、それぞれの役割を順番に体験していった。4日目は同テーマに基づき、踊りたくなる衣装づくりの造形ワークショップを実施。

### ●子供たちの様子

- ・動きやポーズを行う際に、声を出す児童があらわれると、ポーズに音をつける活動へと発展していった。
- ・影絵のスクリーンに映る友だちの影の大きさが変化することに気づくと、どうして影の大きさが変化するのか、光源に近づいたり離れたりしながら、変化の不思議を探索していくようすがみられた。
- ・友だちと協力しながらかたちをつくるワークでは、どんなかたちが面白いのか、子ども同士で相談したり、意見を述べあったりする姿が随所に見受けられた。

## 活動スケジュール(5歳児クラス)

活動内容	実施日	時間/回	人数/回
① アーティストワークショップ1 講師:北川結(ダンサー・振付家)他2名	R7.9.2 (火)	60分程度	12人
② アーティストワークショップ2 講師:北川結(ダンサー・振付家)他2名	R7.9.9 (火)	60分程度	12人
③ アーティストワークショップ3 講師:北川結(ダンサー・振付家)他2名	R7.9.18 (木)	60分程度	11人
④ アーティストワークショップ4 講師:水内貴英(美術家)	R7.10.8 (水)	65分程度	14人
⑤ 影絵遊び(発表会)	R7.11.22 (土)	30分程度	14人



## 振り返りをふまえた気づき

### ●保育士から

- ・昨年度から同じ外部講師と子どもたちでの実施だったことから、子どもたちも最初から緊張がなく、のびのびと楽しみながら表現することができていた。
- ・身体を影絵にしてスクリーンに映す活動等、昨年とは違うアプローチでの表現活動を体験することができた。影絵の動きに合わせて音を奏でたり、また音によって身体の表現が変わったり、子どもたちがそれぞれに影響されながら表現していて、すごいと思った。昨年からの積み重ねによって、そうした表現もできるようになったのだと思う。